付篇1

平成27年度動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査出土の木製品について

水久保　祥子

1. はじめに

本稿では、資料の図化作業が進行していなかったことから未報告であった平成27年度に吉田構内で実施した動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査[註1]で出土した木製品について報告する。なお、音義木簡については、資料の重要性を考慮し、先立ってその概要について報告しているが[註2]、概要報告時にはなかった実測図を加えて他の出土木製品とともに改めて掲載するものである。

2. 調査の概要

周辺の調査成果(図75)

ここで取り扱う木製品の出土地は、吉田構内南東端部に位置する動物医療センターの西側にあたる。当地周辺は平成12年度に総合研究棟調査区での発掘調査が行われて以降、建物の新営および改修等に伴って数次にわたって発掘調査、立会調査が行われてきた。

調査の結果、総合研究棟から動物医療センターの間にわたって埋没谷が確認されている。谷の下流部にあたる総合研究棟調査区(平成12年度調査)の埋没谷からは、円面硯を含む8世紀前半から9世紀中頃の土器類が出土している[註3]。また、農学部解剖実習棟調査区(平成14年度調査)では、埋没谷の右岸に3棟の総柱建物が検出された。埋没谷の埋土から墨書須恵器「官」、銅製蛇尾未製品、銅鉱石、鞴羽口などが出土したことから鋳造関連の官衙の存在が推測されている[註4]。

谷の上流部にある動物医療センター第Ⅰ期改修調査区(平成18年度調査)では、埋没谷右岸の緩傾斜地に大型掘立柱建物が確認され、谷埋土からは7世紀後半から8世紀中頃の土器や木製品が多く出土した[註5]。さらに動物医療センター第Ⅲ期改修工事調査区(平成20年度調査)では、初めて埋没谷の左岸が検出され、杭・矢板列により護岸が施されていた様子が確認された。谷埋土からは、8世紀代の須恵器を主体とする土器とともに木製品が多数出土している[註6]。土器の中には、墨書須恵器「卅(主)」「主・井」「安」も確認されている。動物医療センターリニアック棟調査区(平成26年度調査)では、調査区のほぼ全域が埋没谷にあたることが確認され、谷埋土からは墨書土器「□少カ　殿」「田」を含む7世紀後半から8世紀代を主とする土器類が多く出土している[註7]。

本調査の概要(図76)

立会調査区は動物医療センターの西側にリニアック棟が増築されることを受けて平成26年度に実施した本発掘調査の西側隣接地に位置する(図1)。調査地には既設のプレハブ施設が存在し、この施設を解体した後にリニアック室を建設する予定となっていたが、平成26年度中は講義に使用するため、本発掘調査(平成26年度調査)時には調査対象とすることができず、平成27年度に工事立会を行うこととなった。

調査区内では、平成26年度調査区に続く谷筋が検出され、谷埋土の層序も一致している。基本層序は、

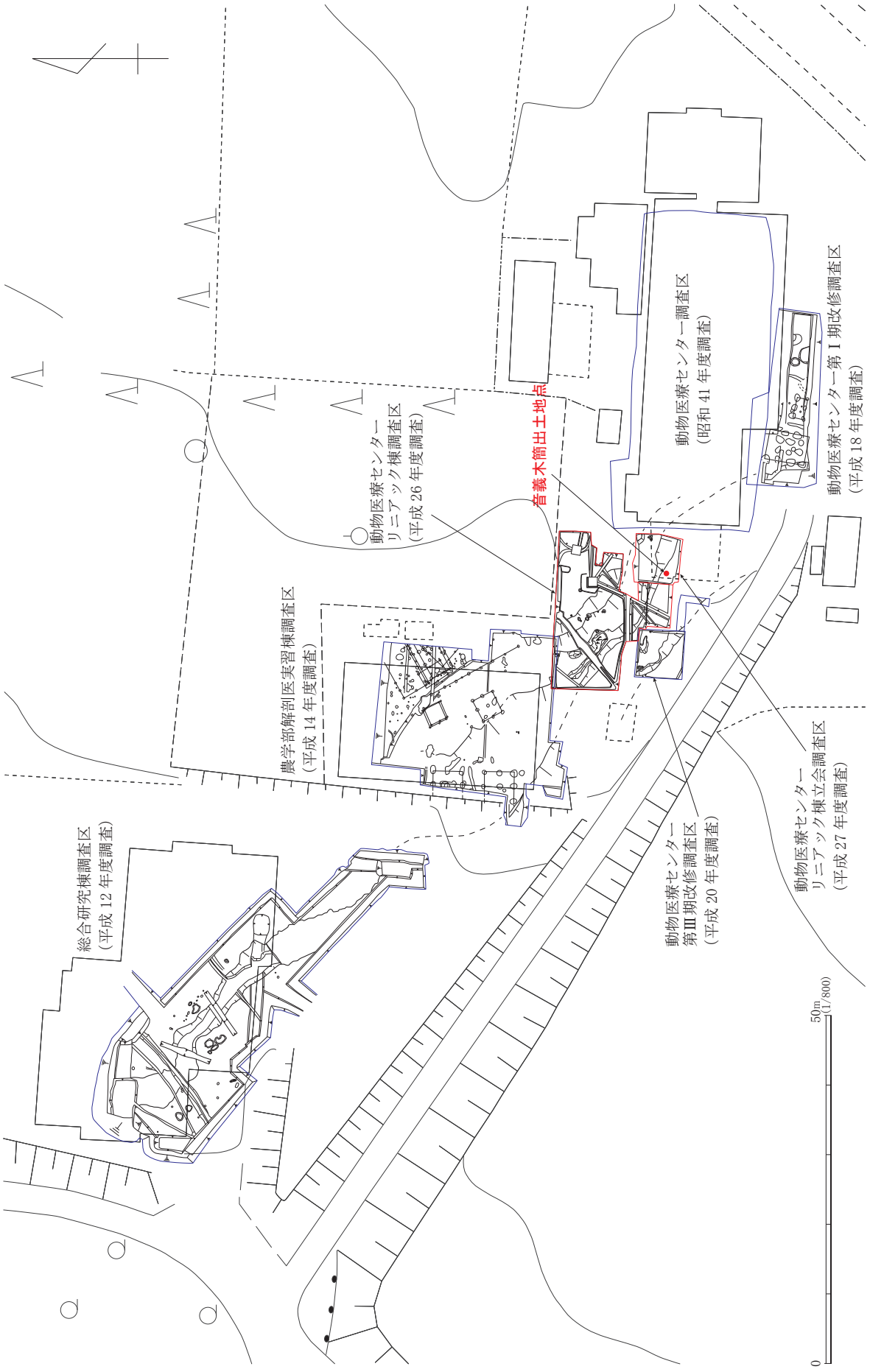
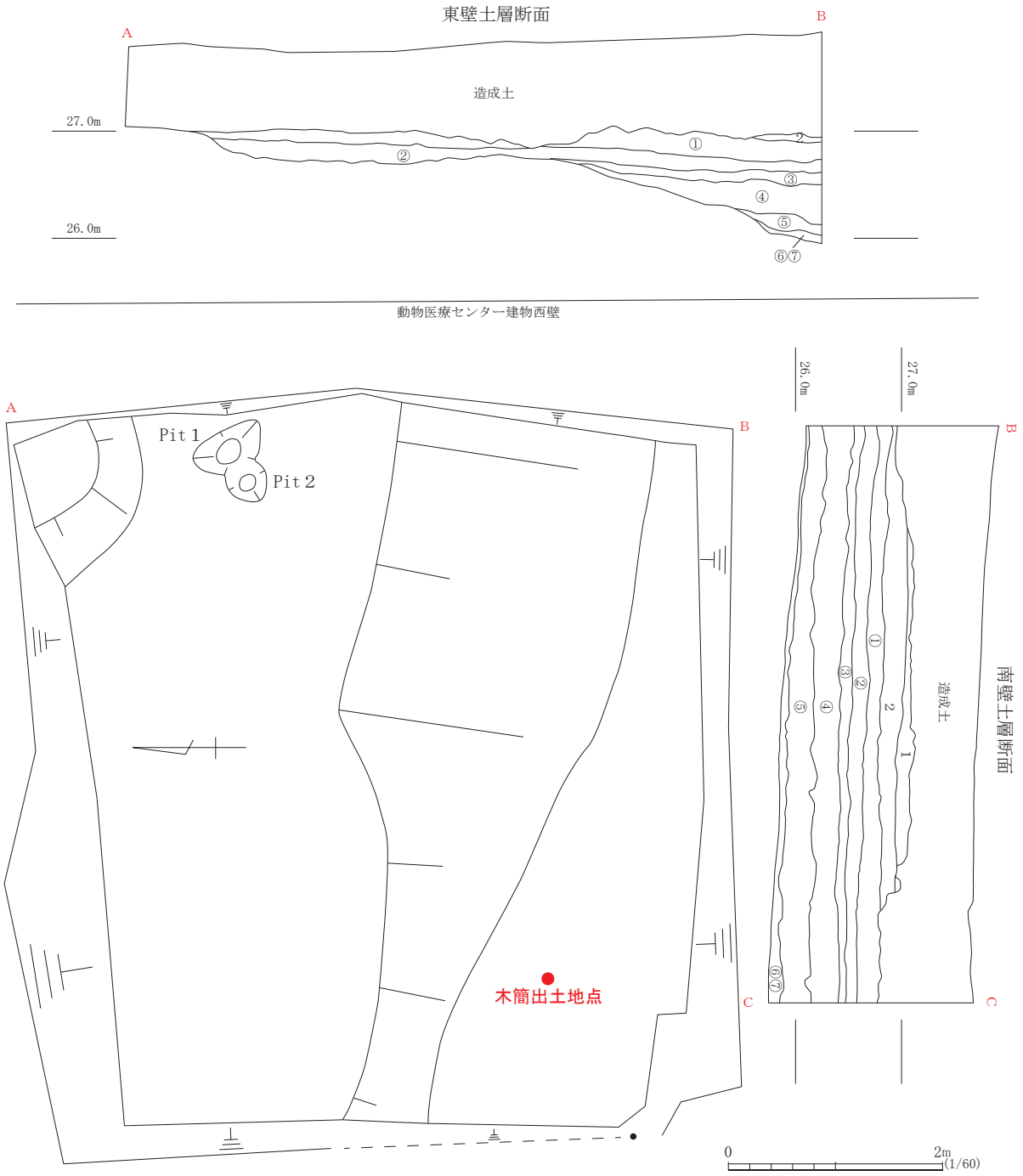

総合研究棟調査区
（平成 12 年度調査）
農学部解剖医実習棟調査区
（平成 14 年度調査）
動物医療センター
リニアック棟調査区
（平成 26 年度調査）
音義木簡出土地点
動物医療センター調査区
（昭和 41 年度調査）
動物医療センター第Ⅰ期改修調査区
（平成 18 年度調査）
動物医療センター
第Ⅲ期改修調査区
（平成 20 年度調査）
動物医療センター
リニアック棟立会調査区
（平成 27 年度調査）
0
50m
(1/800)

図 75　調査区位置図



1	包含層１	黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
2	包含層２	褐灰色（10YR4/1）に褐色（10YR4/4）が混ざる粘質土
①	谷埋土１	黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土に１～２㎜φの白色礫が極少量混ざる
②	谷埋土２上層	黒褐色（10YR3/1）弱粘質土に 0.5 ～２㎜φの礫が少量混ざる
③	谷埋土２下層	谷埋土２上層と同色・同質であるが 0.5 ～ 10㎜φの礫が多量に混ざる
④	谷埋土３上層	黒褐色（2.5Y3/2）泥土に 0.5 ～ 30㎜φの礫が極少量混ざる（木製品多量に含む）※木簡出土層
⑤	谷埋土３下層	黒色（N/2）泥土　※有機物腐植土層
⑥	谷埋土４	黒褐色（2.5Y3/2）泥土に灰黄色（2.5Y6/2）強粘質土が混ざる
⑦	谷埋土５	0.5 ～ 100㎜φの砂礫（水流堆積層）
	地山	明黄褐色（2.5Y6/6）シルトに灰色（N/5）シルトが部分的に混ざる

図 76　調査区平面図・断面図

① 谷埋土1　(黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土に1～2㎜φの白色礫がごく少量混ざる)
② 谷埋土2上層(黒褐色(10YR3/1)弱粘質土に0.5～2㎜φの礫が少量混ざる)
③ 谷埋土2下層(谷埋土2と同色・同質に0.5～10㎜の礫が多量に混ざる)
④ 谷埋土3上層(黒褐色(2.5Y3/2)泥土に0.5～30㎜φの礫が極少量混ざる(木製品多量に含む))
⑤ 谷埋土3下層(黒色(N/2)泥土)
⑥ 谷埋土4　(黒褐色(2.5Y3/2)泥土に灰黄色(2.5Y6/2)強粘質土が混ざる)
⑦ 谷埋土5　(0.5～100㎜φの砂礫)

となっており、谷埋土3下層は有機物が密に堆積し、部分的に腐植土層となっている。このうち谷埋土4・5については、層が薄く、顕著な湧水のため厳密な分層は行われていない。土器の出土は谷埋土2上層が最も多く、木製品は谷埋土3上層からその大半が出土しており、音義木簡も同層から出土している。

3. 出土木製品について(図77・78、写真201・202、表17)

立会調査で出土した木製品は60×37×15㎝の遺物収納コンテナで2箱分あり、図化したものは音義木簡を含め5点である。

谷埋土5層出土

1　棒状製品。断面円柱状に整形されており下端は丸く収めているが、上端は欠損している。残存長21.6㎝、最大幅1.7㎝、最大厚1.5㎝を測る。

谷埋土4層出土

2　曲物蓋。半損しており、現状で3片に割れている。残存長16.9㎝、残存幅6.75㎝、最大厚0.7㎝を測る。

3　棒状製品。3片同一個体と思われるが、そのうちの2片のみが接合する。接合する2片の残存長は計52.0㎝、残りの1片の残存長は22.5㎝、全体を通しての最大幅は2.5㎝、最大厚1.7㎝を測る。断面方形に整形されており、下端は片側が「く」の字状に面取りされている。

谷埋土2層出土

4　曲物の蓋の一部と思われる。残存長8.0㎝、残存幅5.95㎝、最大厚0.95㎝を測る。

谷埋土3上層出土

5　音義木簡。谷埋土3上層中から出土。文字面を下に、ほぼ水平の状態で、複数の木製品とともに発見された。上端は欠損しており、残存長28㎝、最大幅3.7㎝、最大厚0.6㎝を測る。左右側面と下端を削って薄い板状に整形している。木簡下部は摩耗のためと思われる表面の荒れがみられ、幅も下端部で3.3㎝と狭まっている。樹種はヒノキ科ヒノキ属。墨書は片面にのみ認められ、墨が淡く肉眼では判読が困難な文字も多い。釈文は以下の通りである。

1字目	文字:折損	訓:□[田ヵ]
2字目	文字:雨	訓:不　路
3字目	文字:露	訓:ツ　由
4字目	文字:□[結ヵ]	訓:□[亡ヵ]　須　ム
5字目	文字:霜	訓:之　母
6字目	文字:金	訓:□[久ヵ]　加　□

6字目の下にも一部墨書の痕跡かと思われる箇所がみられるが、文字としては判別できない。記載されている内容は、漢字1字の下に万葉仮名でその発音や意味が記されており、音義木簡とみられる。音義木簡は、これまで平城京二条大路跡[註9](奈良県奈良市)、飛鳥池遺跡[註10](奈良県高市郡明日香村)、北大津遺跡[註11](滋賀県大津市:大津京推定地)、観音寺遺跡[註12](徳島県徳島市:阿波国府推定地)の都城や国府に関する遺跡から出土しており、吉田遺跡出土品で5例目となる。

原典は、梁の周興嗣『千字文』第9句から11句にかけての「雲騰致雨　露結爲霜　金生麗水」と考えられる。2字目の「雨」を「フル」と動詞で訓んでいること、本来であれば5字目に入るべき「爲」が欠落することなど、疑問点もあるものの、音義木簡の原典が判明したものとしては初例であり、貴重な資料といえる。

4. まとめ

木製品については、隣接する調査区(平成20年度・平成26年度調査区)からも多数の木製品が出土している。それに対し、北西にあたる農学部解剖実習棟調査区、総合研究棟調査区、南東にあたる動物医療センター第Ⅰ期改修調査区では顕著な出土は確認されていない。リニアック棟調査区は谷筋の中でも木製品の投棄が集中しており、また、出土木製品に端材が多く見受けられることから、近隣に木製品を取り扱う工房の存在が示唆されている[註13]。音義木簡は、これらの施設に関わる官人たちの手習いとして用いられたものであろう。

【註】

1)横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』, 山口

2)横山成己(2018)「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』), 山口

3)田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸＸ』, 山口

4)田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡の概要」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅥ・ＸⅦ』, 山口

5)横山成己(2010)「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』, 山口

6)横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成0年度－』, 山口

7)横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』, 山口

8) 【註1】と同じ

9)奈良国立文化財研究所(1995)『平城宮発掘調査出土木簡概報(三十)二条大路木簡四』, 奈良

10)奈良国立文化財研究所(1998)『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十三)』, 奈良

11)濱修・山本崇(2011)「滋賀・北大津遺跡」, 木簡学会(編)『木簡研究』第33号, 奈良

12)徳島県埋蔵文化財センター(2002)『観音寺遺跡Ⅰ(観音寺遺跡木簡篇)』, 徳島

13) 【註7】と同じ

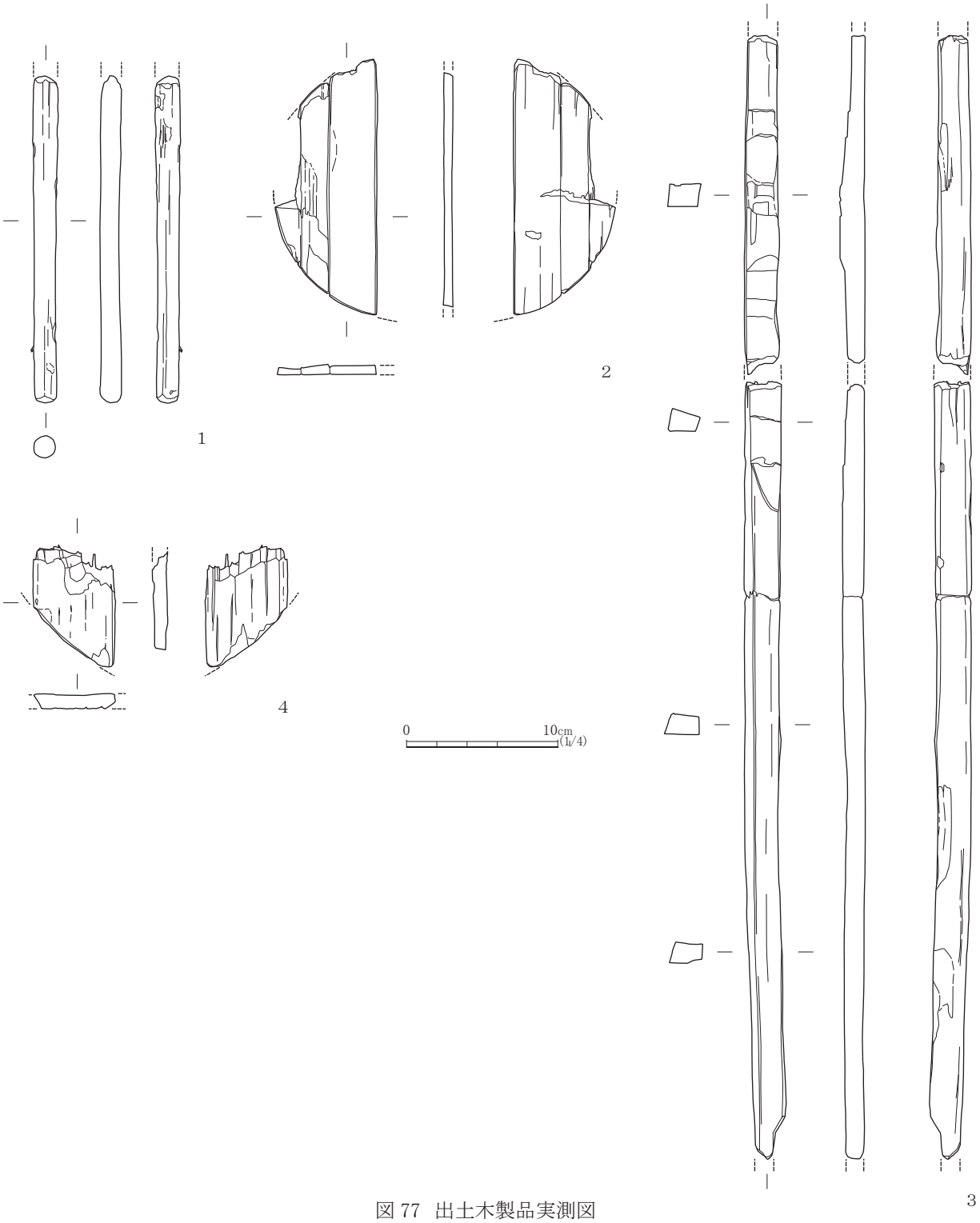
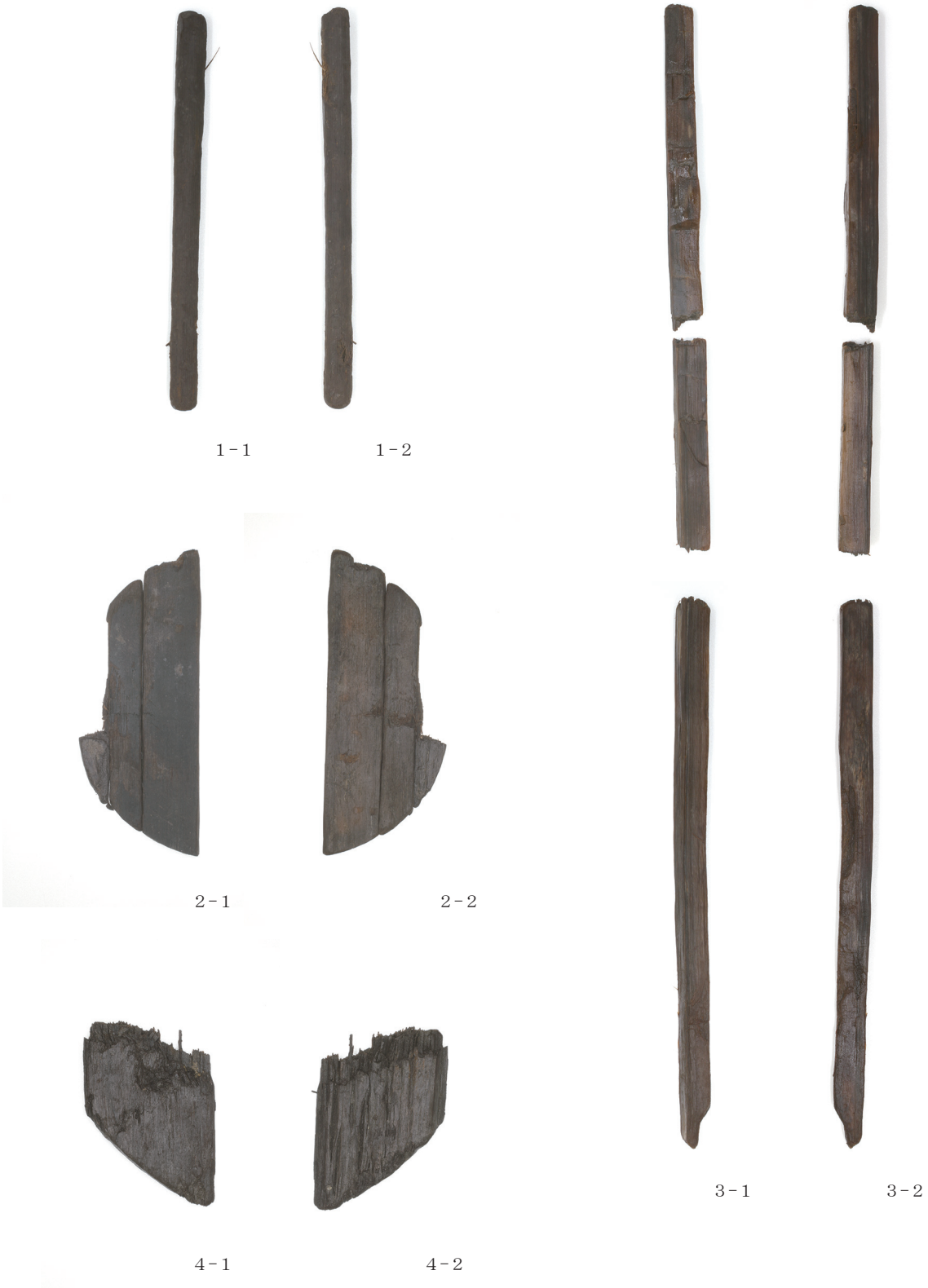


図 77 出土木製品実測図

表17 出土遺物(木製品)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
1	谷埋土3下層	棒状製品	①21.6 ②1.7 ③1.5	
2	谷埋土3上層	曲物蓋か	①16.9 ②6.75 ③0.7	
3	谷埋土3上層	棒状製品	①52.0 22.5 ②2.5 ③1.7	
4	谷埋土2上層	曲物蓋か	①8.0 ②5.95 ③0.95	
5	谷埋土3上層	音義木簡	①28.1 ②3.7 ③0.6	



1－1　1－2

2－1　2－2

3－1　3－2

4－1　4－2

写真 201　出土木製品

5-1　5-2

（奈良文化財研究所　中村一郎氏撮影）

写真 202　出土音義木簡

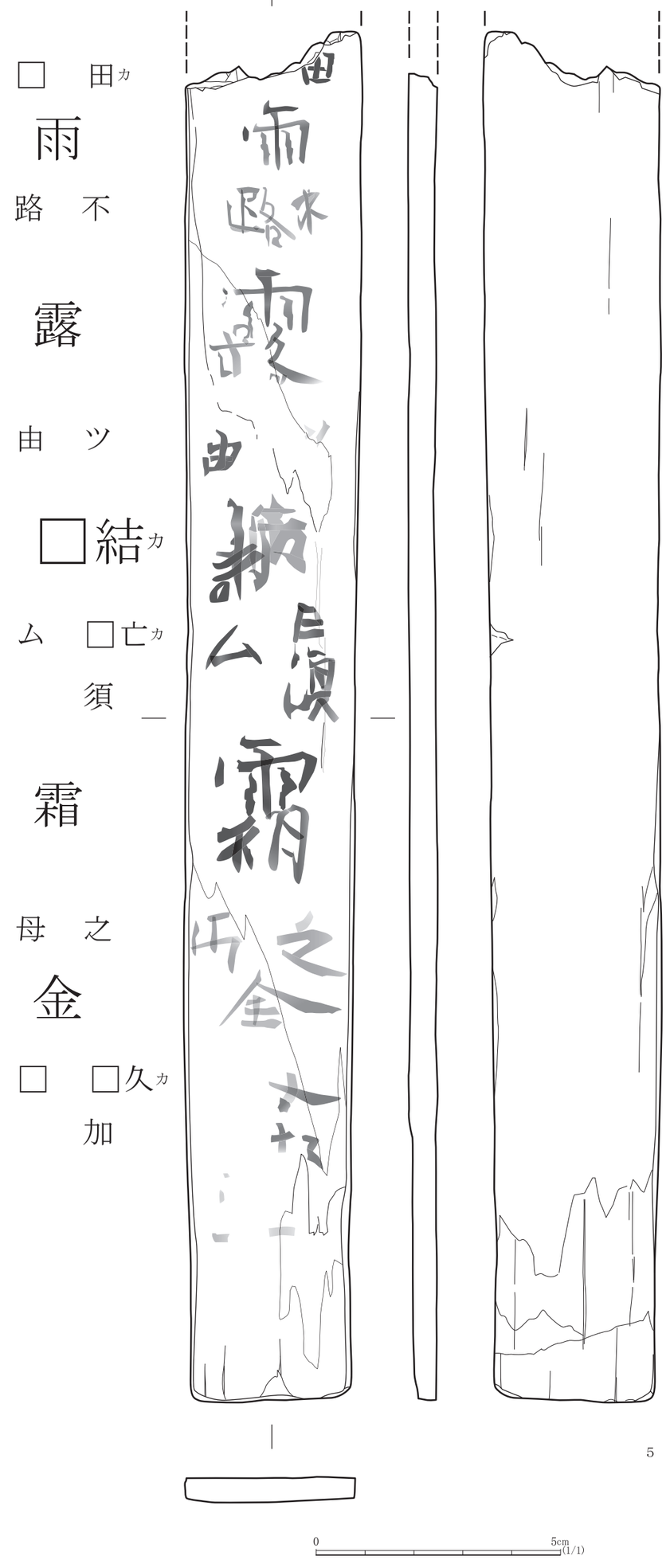


図 78　出土音義木簡実測図